



# 上川井だより

## 2月号

平成31年 1月 31日  
横浜市立 上川井小学校  
校長 山田 アイ子

## 「 立場が人を育てる 」

校長 山田 アイ子

子どもたちの教室を回りながら、「立場が人を育てる」という言葉を思いました。その立場になることで、責任や自覚が生まれ、人が成長していくという意味だと思えます。

小学校卒業のゴールが近づいてきた6年生の教室に、一人一人が書いた漢字一文字が掲示してありました。その一文字には、4月からの中学校生活への期待と小学校卒業までの思いが込められています。6年間共に過ごしてきた仲間への思いや中学校生活への不安を抱きながらも、こんな自分になりたいという自分への期待も感じられます。

5年生の教室には「後期の自分の目標」が、掲示してありました。その目標に、多くの子どもたちが「低学年のお手本になりたい」「低学年に優しくしたい」と書き、中には「学校を支えたい」と書いている子もいました。5年生は全学年の中でも最も人数が多く、とても元気な子どもたちが揃っています。私が朝会で話したことをよく覚えていて、感想を言ってくれたり、時には「話はいいけれど、ちょっと長すぎるよ」と、言われたり…なかなか厳しい評価をしてくれます。人数が多い分、担任は大変なこともあります。集中して力を発揮できる面もあります。そんな5年生が、あと2カ月で最高学年になります。6年生として上川井小学校をリードできるのだろうか、と心配になることもありますが、そんな私の心配を知ってか知らずか…「低学年のお手本になりたい」の言葉から、もうすぐ最高学年になるんだという気持ちが伝わってきて嬉しくなりました。

2月1日に新1年生のための「入学説明会」があります。2年前から、保護者の方が入学説明会に参加されている間に、新1年生と5年生と一緒に折り紙を折ったり絵を描いたりして交流する活動を始めました。この交流で、5年生は最高学年になる自覚の第一歩を踏み出すと共に、入学後に始まる6年生と1年生の交流がスムーズになります。また、新1年生にとっては「一緒に遊んでくれた人がいる」と感じられることが、小学校生活への安心感に繋がると考えています。

そして、入学してからも1年生と6年生は交流学年として、一年間、色々な場での関わりがあります。給食や掃除の手伝いをしたり、なかよし班では一緒に運動会の競技に参加したり、歩いてズーラシアに行ったりする中で、6年生は1年生に、自分の1年生のときの姿を重ね、たくさんの人に支えられて成長したことに気づきます。

最高学年という立場になったからといって、すぐに最高学年としての自覚をもって行動できるのではなく、いろいろな経験を通して最高学年である責任や自覚が芽生え、その気持ちが人を成長させるのだと思います。5年生の子どもたちのように「〇〇になりたい」という思いと、子どもたちの自覚を促す教師や保護者の適切な支援がかみ合って、「立場が人を育てる」ことになると考えます。言い方を変えれば、何の支援もせず期待だけをすることは、かえって、子どもを追い込むだけではないかと思えます。

今年度も、残すところ2か月を切りました。一人一人の子どもたちが様々な役割をやり遂げる姿を見守りながら、子どもたちの成長の後押しをしていきたいと思えます。